

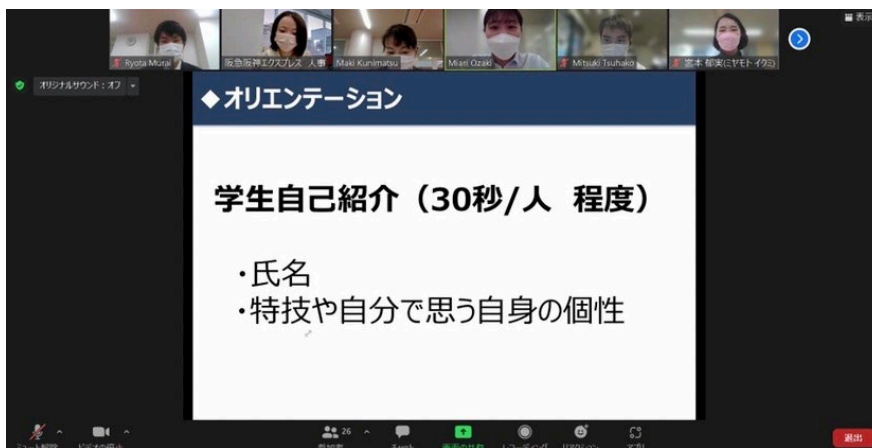
中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	物流業界と株式会社阪急阪神エクスプレスの会社説明の役割・業務
調査日	2021年12月6日(月)
調査先	株式会社阪急阪神エクスプレス
担当教員身分・氏名	教授・国松麻季
授業科目/学部企画名	企業訪問
参加学生数(学年)	20名(1年生8名・2年生12名)
調査趣旨・目的	株式会社阪急阪神エクスプレスや阪急阪神グループの全体像、国内外における役割、同社における職種などについてご説明を聞き、パネルディスカッションや質疑応答を行う。
調査結果	<p>総務人事部人事課上西里果氏より阪急阪神エクスプレスの全体像、社会における役割、同社に携わる職種などについて、事前学習にて学生が抱いた疑問点へのお答えを織り交ぜながらご説明いただいたのちに、先輩社員として総務人事部人事課羽田宗平氏のご経験をパネルディスカッションという形で伺った。また、そののちに座談会形式でお話しいただいた内容についての学生からの質問にお答えいただいた。</p> <p>企業のご説明では、国際物流企業とは生きている人間以外の商品を安全に運ぶことを目的とした企業であること、阪急阪神エクスプレスが担うフォワーダーとは何か、コストの削減方法、アジアを中心としアフリカに積極的に事業展開していること、同社はスピーディーさをメリットとした国際航空貨物輸送を強みとしていること、同社に関わる職種を荷物の輸送過程を例としたご説明など、国際物流企業の初歩的な知識から企業の今後の展望まで幅広く興味深い内容が学生たちの関心を刺激した。</p> <p>パネルディスカッションでは、各職種について実際の仕事内容や、羽田氏の印象に残っている仕事、将来の夢、目標、採用に至る経緯など、仕事や社会についてのイメージを具体化する様々なお話を伺った。また、就職活動について、自分が持てるつながり最大限活かすこと、何事にも一生懸命やりきり一つの軸をつくることといったアドバイスをいただいた。</p> <p>質疑応答では、コロナによる物流費のコストの増大への対応、外国間輸送の案件の引き受け方、海外拠点選択の基準といったことについての質問が学生たちから挙げられ、それぞれ、物流費のコストの増大についてはお客様に理解してもらい対価を払ってもらう、外国間輸送については日本主導もしくは依頼を受ける形で輸送が行われており、阪急阪神エクスプレス株式会社では外国間輸送をしたい会社に提案を行っているというご回答をいただいた。また、海外拠点選択の基準については需要があるかどうか、もしくは海外進出するお客様に合わせるとのご回答をいただいた。</p> <p>ご対応いただいた総務人事部人事課長小林智恵子氏より、熱心な学生の姿勢と大学一、二年生のうちからこういった機会を設ける大学の取り組みを評価いただいた。</p>

オンラインの形でお話を伺った



自己紹介をする学生たち



阪急阪神エクスプレス株式会社のご説明

